

○アカスジカスミカメ

【生態と特徴】

成虫は年4回程度出現し、主にイネ科雑草の穎花内で卵越冬する。第1世代成虫が6月上旬頃、第2世代成虫が7月中旬頃、第3世代成虫が8月中旬頃、第4世代成虫が9月中旬頃にそれぞれ出現する。

イタリアンライグラスなどのイネ科牧草やイネ科雑草の穂を吸汁するが、イネが出穂すると水田内にも侵入して吸汁加害する。口吻が弱いため、加害部位は頂部や鉤合部が多い。また、割れ糸が多いと被害が増加しやすくなる。水田内にイヌホタルイなどのカヤツリグサ科雑草があると繁殖源となる。

体長は5mm程度で、アカヒゲホソミドリカスミカメに比べるとやや幅が広い。体色は黄緑色で、前胸背から膜質部の太い縦条は橙赤色を帯びている（写真）。

【防除対策】

防除は、水田周辺及び水田内のイネ科雑草の管理と乳熟期の薬剤防除が主体となる。水面施用剤を使用する場合は出穂期～穂揃期に施用する。詳細は「斑点米カメムシ類の防除対策について」を参照すること。



写真 アカスジカスミカメ成虫